

# 土木工事特記仕様書（令和7年7月1日以降適用）

- 第1条** 市道段線（明谷橋）補修工事（着手日指定型）は、本特記仕様書及び「徳島県土木工事共通仕様書 令和6年7月」「徳島県土木工事施工管理基準」「徳島県工事検査基準」を準用する。内容が重複する場合には、本特記仕様書を優先するものとする。また、土木工事主要提出書類チェックリスト（時系列）【受注者用】及び様式について、徳島県版を使用するものとする。
- 2 ただし、共通仕様書の各章における「適用すべき諸基準」で示された示方書、指針、便覧等は改定された最新のものとする。なお、工事途中で改定された場合はこの限りでない。

## （土木工事主要提出書類チェックリスト（時系列）【受注者用】に対する変更事項）

- 第2条** 土木工事主要提出書類チェックリスト（時系列）【受注者用】に対する変更事項は、次のとおりとする。

### （チェックリストの読み替え）

提出書類 87 の「工事成績評定に関する意向確認書」は使用しないものとする。

## （土木工事共通仕様書に対する補足事項）

- 第3条** 「徳島県土木工事共通仕様書 令和6年7月」に対する補足事項は、次のとおりとする。

### （共通仕様書の読み替え）【変更】

「1-1-1-24 建設副産物」において、「建設副産物情報交換システム（以下「COBRIS」という。）」とあるのは「コブリス・プラス」と読み替えるものとする。

### （現場代理人及び主任技術者等）【変更】

#### 1-1-1-15 現場代理人及び主任技術者等

##### 1. 選任通知

（4）受注者は、選任通知書に次のものを添付しなければならない。

② 監理技術者を選任した場合（下請金額の総額が5,000万円以上）は、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証（それぞれ表、裏とも）

### （事故報告書）【変更】

#### 1-1-1-40 事故報告書

受注者は、工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に連絡する。また、監督員が指示した場合及び建設工事事故データベースシステムの登録対象となる事故の場合、監督員が定めた期日までに、事故報告書を提出し、建設工事事故データベースシステムに、事故に関する情報を登録する。

### （しゅん工標）【追加】

#### 1-1-1-57 しゅん工標の設置

受注者が希望する場合、次の工事（構造物）を対象に工事に携わった技術者の氏名を標柱（様式第2号）または標板（様式第3号）に記すことができる。

対象工事（構造物）：擁壁、カルバート、橋梁上部工、橋梁下部工、トンネル、堰、水門、樋門（樋管）、砂防堰堤、シェッド、法面、（揚）排水機場

対象技術者：監理（主任）技術者氏名

## （本工事の特記仕様事項）

- 第4条** 本工事における特記仕様事項は、次のとおりとする。

### 1. 総括打合せ

受注者は、工事実施に先立ち、工事に関する総括打合せを発注者で行うものとする。

### 2. 工事工程

受注者は、毎月末の進捗状況をその翌月10日までに監督員に報告するものとする。

### 3. 交通誘導警備員

本工事においては交通誘導警備員を12人計上しているが、施工前に安全対策の協議を監督員と行い、必要に応じて変更するものとする。

#### **4. 通行規制等**

本工事の通行規制に関しては、工事施工前に監督員と受注者において協議を行い、規制形態の最終判断については原則所轄警察署の「道路使用許可」によるものとする。

工事施工については通行規制の手続き完了後から施工を行うものとする。

現場の通行規制形態が全面通行止又は車両通行止として道路使用許可を得た場合、規制開始の1週間以上前より、通行者及び通行車両に対する事前周知として、施工箇所周辺に案内看板を設置する等の措置を行うこと。また、規制開始時及び規制解除時には関係機関に連絡すること。

現場の規制形態が全面通行止又は車両通行止の場合、施工に伴う間接工事費の負担増となる事項が想定されないため、地域補正（一般交通影響有①及び②）は適用しないものとする。

ただし、地元調整等により、監督員・受注者双方で協議した規制内容の変更が生じた場合は、地域補正（一般交通影響）の適用について協議すること。

#### **5. 建設副産物の適正処理**

建設副産物の搬出にあたっては、その適正な処理を確認するために、追跡調査を実施する場合がある。

#### **6. 安全対策**

受注者は現場条件、構造物の構造及び施工方法等を考慮し、足場工等の安全対策を実施するものとする。

#### **7. 支障構造物**

本工事の施工に際して、近接する構造物や埋設物（横断水路等）に影響しないよう慎重に行うこと。

また、施工中に管理者不明の地下埋設物等を発見した場合には、速やかに監督員へ連絡すること。

#### **8. 天災対策**

地震発生等の天災に備えて、特に人命の安全確保を最優先したうえで、あらかじめその対応策を定めておくものとする。

#### **9. その他**

その他、必要と認められるものについては、その都度監督員と協議するものとする。

## (本工事における施工上の留意点)

第5条 本工事における施工上の留意点は、次のとおりとする。

### 1. 塗替塗装工

現場塗替え塗装の塗装回数及び塗装使用量は下記のとおりとする。施工にあたっては十分な換気と養生を行い、必要膜厚を確保すること。

現場塗装箇所は、塗膜厚検査により確認を行うこと。

#### 【Rc-Ⅱ塗装系（はけ、ローラー）】

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m <sup>2</sup> )	塗装間隔
素地調整	2種		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント※1	(240)	
下塗	弱溶剤形変成エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日～10日※2
下塗	弱溶剤形変成エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日～10日
下塗	弱溶剤形変成エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日～10日
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140	1日～10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120	1日～10日

※1：素地調整程度2種ではあるが、健全なジンクリッチプライマーやジンクリッチペイントを残し、ほかの旧塗膜を全面除去した場合は、鋼材露出部のみ有機ジンクリッチペイントを塗布する。この際、使用量の目安は240g/m<sup>2</sup>程度とする。素地調整程度2種で旧塗膜を全面除去した場合は、有機ジンクリッチペイントの使用量が600g/m<sup>2</sup>とする。

※2：現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。受注者は、工事実施に先立ち、工事に関する総括打合せを発注者を行うものとする。

### 2. 部材取替工

施工に先立ち、再測による形状把握を行う。

既設部材の切断・撤去にあたっては、他の部分に損傷を与えないように行わなければならない。

現場溶接に先立ち、開先の状態、材片の拘束状態等について注意をはらわなければならない。

溶接材料、溶接検査等に関する溶接施工上の留意点については、工場溶接に準じて考慮しなければならない。

溶接現場の気象条件が以下に該当する時は、溶接欠陥の発生を防止するため、防風設備及び予熱等により溶接作業条件を整えられる場合を除き溶接作業を行ってはならない。

- ①雨天または作業中に雨天となるおそれのある場合
- ②雨上がり直後
- ③風が強いとき
- ④気温が5℃以下の場合
- ⑤その他監督職員が不相当と認めた場合

### 3. 高欄嵩上げ工

施工に先立ち、再測による形状把握を行う。

既設部材の削孔を行う場合には、部材取付位置を確認し、他の部分に損傷を与えないように行わなければならない。

部材取付にあたっては、接触面の浮きさび、油、泥等を清掃して取り除き、ボルト締付けにより密着させるようにしなければならない。

締付け確認をボルト締付け後速やかに行い、全数についてマーキングによる外観確認を行わなければならない。

高欄嵩上げ工の施工については、設計図書に従い、正しい位置、勾配、平面線形に設置しなければならない。

### 4. 塗膜くず処分

塗膜剥離剤で除去した、有害物質を含む塗膜くずは無害化处理認定施設で処分すること。

受入場所（参考）：神戸市西区岩岡町 関西環境建設株式会社

搬出に際しては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」を遵守しなければならない。